



# 07

## しゅなる かみさまに したがい とおす レムナント

けつようび

みんすうき  
民数記  
しやうせつ  
14章 24節

ただし、わたしのしもベカレブは、ほかの者<sup>もの</sup>と違<sup>ちが</sup>った心<sup>こころ</sup>を持っていて、わたしに従<sup>したが</sup>い通<sup>とお</sup>したので、わたしは彼<sup>かれ</sup>が行<sup>い</sup>って来<sup>き</sup>た地<sup>ち</sup>に彼<sup>かれ</sup>を導<sup>みちび</sup>き入<sup>い</sup>れる。彼<sup>かれ</sup>の子孫<sup>しそん</sup>はその地<sup>ち</sup>を所有<sup>しやうゆう</sup>するようになる。

イスラエルの民は多くの民族の中<sup>なか</sup>でもとて小<sup>ちひ</sup>さく弱<sup>よわ</sup>い民族<sup>みんぞく</sup>でした。神様<sup>かみさま</sup>はそのよ  
うなイスラエルの民<sup>たみ</sup>を選<sup>えら</sup>んで、全<sup>ぜん</sup>世界<sup>せかい</sup>のすべ<sup>すべ</sup>ての民族<sup>みんぞく</sup>に福<sup>ふく</sup>音<sup>いん</sup>を伝<sup>つた</sup>えるようにと<sup>い</sup>言<sup>い</sup>  
われました。しかしイスラエルは、伝<sup>つた</sup>えるべき福<sup>ふく</sup>音<sup>いん</sup>をかすま<sup>か</sup>せてしま<sup>しま</sup>いました。神様<sup>かみさま</sup>  
はこのとき、奴<sup>ど</sup>隷<sup>れい</sup>、捕<sup>ほ</sup>虜<sup>りょ</sup>、属<sup>ぞく</sup>国<sup>こく</sup>という神様<sup>かみさま</sup>の方法<sup>ほうほう</sup>を彼<sup>かれ</sup>らのため<sup>ため</sup>に用<sup>もち</sup>いら<sup>ら</sup>れました。それ  
は、神様<sup>かみさま</sup>の絶<sup>ぜつ</sup>対<sup>たい</sup>計<sup>けい</sup>画<sup>かく</sup>でした。また、神様<sup>かみさま</sup>は彼<sup>かれ</sup>ら<sup>ら</sup>を、400年<sup>ねん</sup>にわた<sup>わ</sup>るエジ<sup>じ</sup>プト<sup>と</sup>の奴<sup>ど</sup>隷<sup>れい</sup>生<sup>せい</sup>活<sup>かつ</sup>  
から出<sup>だ</sup>させ、だれも行<sup>い</sup>ったこと<sup>こと</sup>がない荒<sup>あ</sup>野<sup>の</sup>へと導<sup>みちび</sup>かれま<sup>ま</sup>した。荒<sup>あ</sup>野<sup>の</sup>は、夜<sup>よる</sup>は暗<sup>くら</sup>くて  
寒<sup>さむ</sup>いところ<sup>ところ</sup>でした。喉<sup>のど</sup>が渴<sup>かわ</sup>いて、食<sup>た</sup>べ物<sup>もの</sup>もな<sup>な</sup>い荒<sup>あ</sup>れは<sup>は</sup>てた地<sup>ち</sup>でした。しかし、神様<sup>かみさま</sup>  
は荒<sup>あ</sup>野<sup>の</sup>で過<sup>す</sup>ごした時<sup>じ</sup>間<sup>かん</sup>を通<sup>とお</sup>して、イスラエルの民<sup>たみ</sup>が持<sup>も</sup>っていた奴<sup>ど</sup>隷<sup>れい</sup>時<sup>じ</sup>代<sup>だい</sup>の刻<sup>こく</sup>印<sup>いん</sup>、根<sup>ね</sup>、  
体<sup>たい</sup>質<sup>しつ</sup>を<sup>か</sup>変<sup>へ</sup>えて<sup>か</sup>た<sup>た</sup>ま<sup>ま</sup>して<sup>ま</sup>した。このとき、神様<sup>かみさま</sup>はすべ<sup>すべ</sup>ての民<sup>たみ</sup>が幕<sup>まく</sup>屋<sup>や</sup>と会<sup>かい</sup>見<sup>けん</sup>の天<sup>てん</sup>幕<sup>まく</sup>、  
天<sup>てん</sup>幕<sup>まく</sup>中<sup>ちゆう</sup>心<sup>しん</sup>に生<sup>せい</sup>きなさいと<sup>い</sup>言<sup>い</sup>われま<sup>ま</sup>した。神様<sup>かみさま</sup>に守<sup>まも</sup>られ、導<sup>みちび</sup>かれ、神様<sup>かみさま</sup>  
がと<sup>と</sup>もに<sup>も</sup>お<sup>お</sup>ら<sup>ら</sup>れる<sup>る</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>を<sup>を</sup>体<sup>たい</sup>験<sup>けん</sup>さ<sup>さ</sup>せて<sup>て</sup>く<sup>く</sup>だ<sup>だ</sup>さ<sup>さ</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>の<sup>の</sup>で<sup>で</sup>す。

イスラエルの民のように選<sup>えら</sup>ばれた私<sup>わたし</sup>たちは、神様<sup>かみさま</sup>の方法<sup>ほうほう</sup>である幕<sup>まく</sup>屋<sup>や</sup>と神<sup>しん</sup>殿<sup>でん</sup>、教<sup>きやう</sup>会<sup>かい</sup>  
の祝<sup>しゆく</sup>福<sup>ふく</sup>を味<sup>あじ</sup>わ<sup>わ</sup>え<sup>え</sup>ば良<sup>よ</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>です。聖<sup>せい</sup>日<sup>じつ</sup>礼<sup>らい</sup>拝<sup>はい</sup>で神様<sup>かみさま</sup>が<sup>か</sup>く<sup>く</sup>だ<sup>だ</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>契<sup>けい</sup>約<sup>やく</sup>のみ<sup>み</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>ば<sup>ば</sup>を、神<sup>かみ</sup>様<sup>さま</sup>  
のみ<sup>み</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>ば<sup>ば</sup>と<sup>と</sup>して握<sup>にぎ</sup>って毎<sup>まい</sup>日<sup>にち</sup>過<sup>す</sup>ご<sup>ご</sup>し<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>ょう<sup>う</sup>。神<sup>かみ</sup>様<sup>さま</sup>の働<sup>はたら</sup>き<sup>き</sup>が私<sup>わたし</sup>たち<sup>ち</sup>にも<sup>も</sup>その<sup>その</sup>ま<sup>ま</sup>  
成<sup>じやう</sup>就<sup>じゆ</sup>する<sup>る</sup>で<sup>で</sup>し<sup>し</sup>ょう<sup>う</sup>。



書いてみよう

奴<sup>ど</sup>隷<sup>れい</sup>であ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>と<sup>と</sup>きの刻<sup>こく</sup>印<sup>いん</sup>、根<sup>ね</sup>、体<sup>たい</sup>質<sup>しつ</sup>を福<sup>ふく</sup>音<sup>いん</sup>で<sup>か</sup>変<sup>へ</sup>えて<sup>て</sup>く<sup>く</sup>だ<sup>だ</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>  
神<sup>かみ</sup>様<sup>さま</sup>のみ<sup>み</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>ば<sup>ば</sup>を<sup>を</sup>聖<sup>せい</sup>書<sup>しよ</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>探<sup>た</sup>して、下<sup>した</sup>の( )を<sup>を</sup>埋<sup>う</sup>め<sup>め</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>ょう<sup>う</sup>。

ただ、( )にそむいてはならない。  
その地の人々を( )てはならない。  
彼らは私たちの( )となるからだ。  
彼らの守りは、彼らから取り去られている。  
しかし( )が私たちと( )おられるのだ。  
彼らを( )てはならない。  
申命記14:9のみことば

きょうのみことば

Blank lines for writing the lesson's main message.

きょうのいのり

神様、ありがとうございます。幕屋、神殿、教会を中心に、みことばを与え、成就される神様の働きが、私たちにそのまま成就しますように。生きておられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

きょうのでんどう  
あひと  
会う人

じゆんび  
しりやう  
準備する資料



08

かようび

# にんげんをとる りょうしとして よばれました

マルコ

16章 17~18節

しん じん ひとびと には 次 の よう な し り し が 伴 い ます。すなわち、わたし の 名 に よっ て 悪霊 を 追 い 出 し、新 し い こ と ば を 語 り、蛇 を も つ か み、た と い 毒 を 飲 ん で も 決 し て 害 を 受 け ず、ま た、病 人 に 手 を 置 け ば 病 人 は い や さ れ ます。

いま びょうき じだい 今 は 病 気 の 時 代 で す。目 に 見 え る 病 気 と 目 に 見 え な い 病 気 が 地 球 全 体 を 覆 っ て い ます。ま た、文 化 が 流 れ に な っ て、個 人 と 家 庭、国 と 世 の 中 を 惑 わ し て い ます。平 安 が な い の で、う つ 病、双 極 性 障 害、パ ニ ッ ク 障 害 を は じ め と し た 精 神 病 患 者 は 増 え る 一 方 で す。家 庭 が 平 和 で な く、多 く の 事 件 や 事 故、両 親 の 離 婚 な ど に 次 世 代 は 苦 し ん で い ます。こ の よう な 個 人 と 家 庭 の 問 題 は、結 局、一 つ の 国 を 越 え て、全 世 界 に 霊 的 問 題 を 広 げ て い く の で す。

イエス様がこの地に來られた時代、イスラエルはローマの属国状態でした。重要な福音の契約をのがした祭司とイスラエルの民にとって、奴隷、捕虜、属国は当然の結果でした。そのような世界に、イエス様がキリストとして來られて、病んでいる者をいやし、悪霊を追い出して現場をいやされました。

神様はキリストを信じる私たちにも、悪霊を追い出して現場をいやす証人の祝福をくださいました。病んでいる現場は、福音を持つ伝道者だけがいやすことができます。神様が私たちを、人を生かして現場を生かす祝福の証人と呼んでくださった事実を記憶して、今日も勝利しましょう。



きょうのみことば



きょうのいのり

かみさま 神様、ありがとうございます。私 が ます 現場 を 福 音 で 生 か し て 変 え る 証 人 にな り ます よう に。生 き て お ら れ る イ エ ス ・ キ リ ス ト の お 名 前 に よ っ て お 祈 り し ます。ア ー メ ン



いろをぬろう

イエス様は私たちを、ペテロのような人間をとる漁師として呼ばれました。イエス様とペテロが出会った場面をえがいた絵に色をぬって完成させましょう。



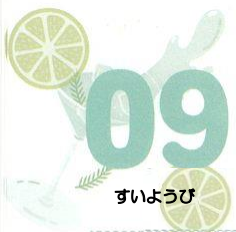
きょうのでんどう

あひと 会う人

じゆんび しりょう 準備する資料

Blank lines for writing preparation materials.





# 09

すいようび

## レムナントが あらかじめ あじわう かみさまからの そうぞく

イザヤ  
60章 1節

お起きよ。光を放て。あなたの光が来て、主の栄光があなたの上に輝いているからだ。

地球には数多くの国とそこに住む人々がいますが、昔とはちがって、今は遠く離れた国に住む者同士であってもつながることができるようになりました。その一方で、目に見えることも見えないことも、さらにいえば霊的なことも、全世界に伝わっていくという事実を忘れてはいけません。それと同時に、レムナントとして、いくつかのことを理解しているなら、世界福音化の祝福をあらかじめ味わうことができます。1つ目、誰も解決できない霊的問題を解決する唯一の道は、イエス・キリストだけということです。2つ目、イエス・キリストを信じることによって救われた神の子どもは、霊的世界を味わう祈りの祝福があるということです。このとき、神様が私にだけくださるミッションを受けることができます。3つ目、神様のみことばが力として、成就します。4つ目、勉強する場所で、神様の願いである伝道と宣教を味わいます。これが、すべてのレムナントがあらかじめ味わった神様からの相続です。このように大切な祝福を味わう今日をのがさないようにしましょう。今日、私が握った神様のみことばによって、必ず全世界をいやすサミットの座に導かれるでしょう。



みことばを適用しよう

神の子ども、レムナントに臨んだ光はどんな光でしょうか。両親や教会の先生と話をし、私が知っている光とどんなちがいがあのかを書きましょう。



私が知っている光は？

聖書が語るまことの光は？

きょうのみことば

Handwriting practice lines for the lesson.

きょうのいのり

神様、ありがとうございます。聖書の中のレムナントに与えられた祝福のみことばと証拠が私たちにまったく同じように臨みますように。生きておられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

きょうのでんどう

会う人

Grid area for writing the lesson.

準備する資料

Blank lines for preparing materials.



# ふしんこうの ことばを おそれては ならない

もくようび

みんすうき  
民数記  
しやう  
16章 25~35節

しかし、もし主がこれまでにないことを行なわれて、地がその口を開き、彼らと彼らに属する者たちとを、ことごとくのみこみ、彼らが生きながらよみに下るなら、あなたがたは、これらの者たちが主を侮ったことを知らなければならない。(30)

カナンの地を偵察して来た人たちの報告を聞いて、イスラエルの民は深い悲しみに陥りました。カナンの地に住む人々はとても強いので、そこを征服できないだろうと聞いたのです。この報告を聞いたイスラエルの民は夜通し泣きました。このとき、イスラエルの民には3種類の人がありました。まずは恨んで攻撃的になる人々です。次に、不信仰の話を聞いてとまどう人々です。最後の人は、絶対に揺れない信仰の人たちでした。私たちはどんな人でなければならないのでしょうか。その前に、まず私たちがいつも記憶して確認しなければならないことがあります。

世界福音化は神様の当然の計画です。そして、出エジプトと荒野を通過することは、神様の必然の計画です。そして、カナンに入ることは、神様の絶対計画です。レムナントは、これを絶対にのがしてはならず、しっかり覚えて、不信仰によって恨む人々になつてはなりません。また、神様がくださった道を歩むとき、とまどう人ではなく、絶対に揺れない信仰の人になるべきです。今日も私たちを導いてくださる神様に、私をささげる祈りの時間を持ちましょう。



きようのみことば



きようのいのり

神様、ありがとうございます。神様の当然の計画、必然の計画、絶対計画を知って、絶対に揺れないレムナントになりますように。生きておられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



みことばを  
てまう  
適用しよう

おそ 恐れを与えたり、不信仰になったりすることばを聞いたことはありませんか。  
した ぶんしやう おお こえ よ ふしんこう しんこう かくはく か  
下の文章を大きな声で読んで、不信仰のことばを信仰の告白に変える  
れんしゆう  
練習をしましょう。

なまえ 名前： \_\_\_\_\_ です

かみさま わたし 神様が私にくださったことは \_\_\_\_\_ で、

かみさま つく わたし 神様が造られた私は \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ です。

かみさま わたし 神様は私を \_\_\_\_\_

せいしよ 聖書のレムナントのように隠しておられ \_\_\_\_\_

かみさま わたし 神様が私を \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ 小学校を生かすために送られました。

かみさま さだ よ わたし 神様が定めて呼んでくださった私は、これから、  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_



きようのでんどう

あひと 会う人

じゆんび 準備する資料

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_



## ひざら

みんすうき  
民数記  
16章 36~40節

そこで祭司エルアザルは、焼き殺された者たちがささげた青銅の火皿を取って、それを打ち延ばし、祭壇のための被金とし、イスラエル人のための記念とした。これは、アロンの子孫でないほかの者が、主の前に近づいて煙を立ち上げることがないため、その者が、コラやその仲間のようなめに会わないためである。——主がモーセを通してエルアザルに言われたとおりである。(39~40)

火皿とは火がついた香を入れるための器です。大祭司が火皿に火をつけた香を入れて、至聖所に入っていき、その香の煙を神様にささげました。火皿は祈りを象徴します。ところが、イスラエル民族は偵察の報告を受けて、不信仰によってとまどった結果、大祭司でない人が火皿を持って大祭司だけにゆるされた仕事をしてしまったのです。神様は、このように自らの利益のために神様に挑戦したイスラエル民族の回復のため、火皿の火を受けられませんでした。そして、火皿を打ち延ばして板を作って、その板で祭壇を囲むように言われ、記念とされました。

私たちはどんなことがあっても不信仰に陥らないように祈りましょう。そして、神様がレムナントに与えられた永遠のことを見つけて、聖霊の働きを味わって待ちましょう。「永遠のこと」は全世界237か国のための神様の計画を心に抱くことです。また、神様がレムナントである私たちをサミットと呼ばれたことを忘れないようにしましょう。最後に、世の中をいやす伝道者と呼ばれたことを記憶して、神様がくださった火皿のまことの意味を心に留めましょう。

### きょうのみことば

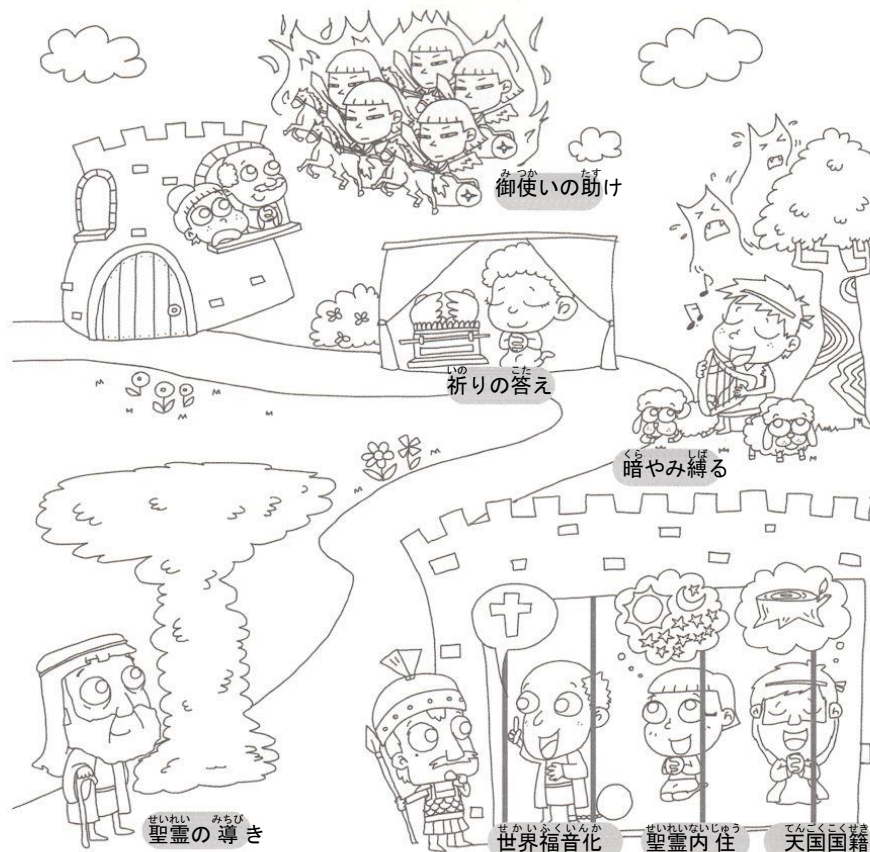
### きょうのいのり

神様、ありがとうございます。私の不信仰にならないように、永遠の契約の中に入っていくことができますように。そして、今日も勝利することができますように。生きておられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



みことばを  
適用しよう

永遠のことである神様の計画を受けた私たちは伝道者です。そのような私たちに与えられた神の子どもの身分と権威の絵に色をぬって、最高の祝福をくださった神様に感謝の祈りをささげましょう。



御使いの助け

祈りの答え

暗やみ縛る

聖霊の導き

世界福音化

聖霊内住

天国国籍

### きょうのでんどう

あひと  
会う人

じゅんび  
準備する資料



# 12 心くいんかの ながれ

とよび

マイ 9章 35節

それから、イエスは、すべての町や村を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいをいやされた。

この地の福音がどんどん消えていき、福音の価値を味わう人がなくなっていくことに心を痛めて涙の祈りをささげる少数の人々のことを、神様はご存知でおられます。また、福音のためにいのちをかけることができる人々のことも、よくご存知です。神様はこのような人々を通してみことばを成就されます。

聖書を見ると、このような人々何人かがチームを組んだとき、世界福音化の祝福を味わったことがわかります。出エジプトと出バビロン、出ローマの時も、このような人々が主役として用いられました。そして、神様は今もそのような人を探しておられます。福音が消えて教会が閉鎖する時代を迎えた今、福音のみことばが刻印されるその時刻表に、私たちは自分自身をささげるべきです。これを福音化と言います。いまは福音化の流れに乗って、福音にいのちかける価値を発見するレムナントになりましょう。



きょうのみことば

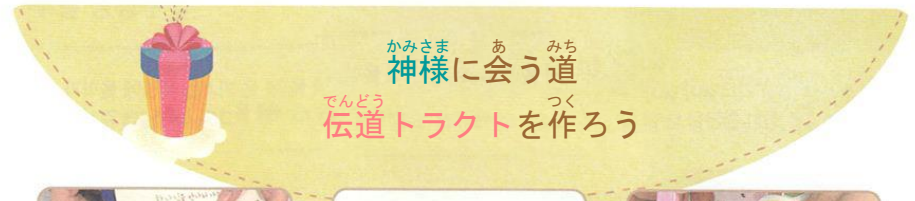
Blank lines for writing the lesson text.



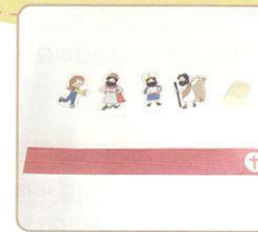
きょうのいのり

神様、ありがとうございます。福音のための涙をもって、みことばによって福音化する時刻表にいのちをかける人として立ちますように。生きておられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

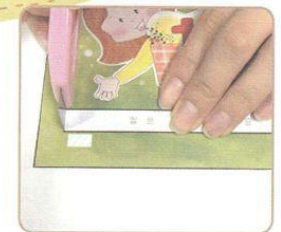
神様は、いのちをかける価値を発見することができるように私を導いてください。その価値を伝える伝道トラクトを作りましょう。  
ワーク 伝道トラクトを作ったとき、福音のみことばが刻印されるでしょう。



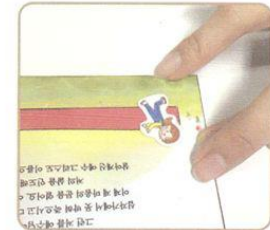
1 次のページの絵を実線に沿って切り、2つを表裏ではりあわせませ



2 絵と帯を切り抜きます



3 絵の中の実線をカッターで切り抜きます (カッターを使うときは危険なので気をつけてください)



4 十字架の絵がある帯を紙の裏側に置いて、女の子を穴の上からはりませ。 (のりは真ん中だけに付けてください)



5 十字架の帯を引っ張るとイエス様の三職があらわれるようになると、できあがり!



きょうのでんどう

会う人

Grid area for writing names of people to meet.

準備する資料

Blank lines for listing preparation materials.



かみさま あ みち  
神様に会う道

右と左を切りぬいたあと、表裏にはりあわせて使ってください。  
本の付録の絵には、女の子がなかったので、説明にあった女の子の絵を使っています。画質がよくないので、自分で好きな絵を描いて作ってください



あなたに、つたえたいことがあるの  
きいてほしいな



おめでとう！  
いま、あなたも  
神の子どもになったよ！

カッターできりぬいてください



いろいろなことがあるから  
心配になることがあるでしょう。

心配していたら、悩んだり  
イライラしたりするよね。

そんな私たちの心配、悩み  
問題をすべてご存じて  
一気に解決してくださる方が  
おられます

それが  
**イエス・キリストです！**

イエス・キリストに会えば、過去、いま、未来の問題を、  
いま解決してもらえます。そして、神の子どもになります。  
下の十字架をひっぱって、受け入れの祈りをすればよいのです。

受け入れの祈り

神様、私は罪人です。

いままで神様から離れて、神様を知らずに生きてきました。

そのような私のためにイエス様が身代わりになって  
十字架で死んでくださり、よみがえられたことを信じます。

いま、私の心のとびらを開きます。

イエス様が入ってきてくださり、私の生活を導いてください。

生きておられるイエス・キリストの御名によって

お祈りします。アーメン

カッターできりぬいてください

